

令和7年度 第3回学校運営協議会 議事録

1. 日時 令和8年2月24日(火) 18時00分～20時30分

2. 開催方法 対面

3. 学校運営協議会(定時制部会)名簿

- | | | |
|----|--------|--------|
| 1) | 会長 | 岩野 豊治 |
| | 副会長 | 大堀 彰子 |
| | 委員 | 吉岡 哲郎 |
| | 委員 | 吉澤 省之 |
| | 委員 | 鈴木 健仁 |
| | 委員 | 福岡 千晶 |
| | | |
| 2) | 准校長 | 安達 武史 |
| | 教頭 | 中村 有希 |
| | 教務主任 | 野口 結衣 |
| | 生徒指導主事 | 坂下 一輝 |
| | 進路指導主事 | 山川 恵美子 |

4. 議事内容

- 1) 准校長挨拶
- 2) 会長挨拶
- 3) 学校運営の動向について報告
- 4) 協議
- 5) 事務連絡
- 6) 閉会挨拶

5. 第二回学校運営協議会以降の本校の動向説明

(1) 准校長 令和7年度学校経営計画及び評価について(資料1-1)

資料1-1裏面に、学校運営協議会からの意見及び学校教育自己診断の結果・分析を掲載している。また、資料1-1の2枚目には自己評価を記載している。

教職員の勤務状況については、時間外在校等時間の月平均が9時間28分であり、大きな課題は見られない。引き続き教職員の健康管理に配慮していく必要がある。また、組織としての風通しの良さを維持し、教職員が意見を出し合いやすい職場環境づくりを進めていく必要がある。

(2) 准校長 令和8年度学校経営計画について(資料1-2)

本日の協議でいただく意見を踏まえ、来年度の学校経営計画を策定していく。年間行事や学習活動、キャリア教育等を中心に協議いただきたい。

目指す学校像については、今年度の内容を継続する予定である。また、中期的目標についても令和7年度の内容を踏襲しつつ、教員研修の充実に努めていく。

一方で、教職員によっては月45時間を超える時間外勤務が発生していることから、引き続き状況を注視し

ていく必要がある。

(3) 教頭 学校活動報告等について(資料2-1)

①修学旅行について

令和7年11月19日(木)から予定通り3日にわたって実施された。生徒・教員23名全員が無事に全工程をおえることができた。

②学校説明会について

令和7年12月1日(月)と令和8年1月26日(月)に2回実施している。例年に比べて多数の参加者があったため、後方の参加者から声が聞こえづらいという意見がだされた。第2回ではその点を改善するためグループ人数を少なくして学校案内を実施した。

(4) 教務部より報告

①在籍者数について(資料2-2-1)

令和8年2月12日付で在籍者数は107名、第二回学校運営協議会以降では退学者2名、転入学者1名であった。卒業予定者数は3年生10名、4年生10名(うち2名は前期卒業)となっている。卒業式は3月3日に挙行予定となっている。

②令和8年度行事予定について(資料2-2-2)

修学旅行の日程は未定。前期卒業は令和8年度からなくなる。ふるさと堺探検隊は昨今の気温上昇のため今年度12月に移行した。

(5) 生徒指導部より報告

①生活指導関係(資料2-3-1)

懲戒指導人数は今年度17名となっている。特に、喫煙が多く見られる。喫煙に伴った対教員暴力もあった。またSNS上での悪口の投稿などの事案も発生している。年間行事ではSNS講習会や交通安全講習会を実施したが、自転車の法律改正の観点からドライビングスクールに交通安全講習会を依頼した。

②生徒会関係(資料2-3-2)

部活動の加入状況は前回以降に変化はない。年間行事では、2月18日に卒業生を送る会を実施した。

③保健関係(2-3-3)

学校医と連携し適切に診断・検査等を行っている。加えて教員研修でAED研修を実施している。環境衛生検査では空気検査や照度検査を実施している。保健室の来室者が60名増加、年間を通して1000名程度の来室者がある。

(6) 進路指導より報告

①進路状況(資料2-4-1)

学校紹介での就職は5名、進学決定者は5名。看護医療に2名合格している。ただ、看護・医療系を受験した者はほとんどが合格しており、入学後ついていけるか心配している。その他が8名、就労移行B型が2名いる。

今年度からパソコンでの履歴書作成ができるようになったため、履歴書作成講座を開催した。生徒、教員双方の負担軽減につながっている。また、9月4日から9月12日にかけて面接指導強化週間を設け、就学・進学希望者の面接指導を行い、主体的に動けない生徒にも必ず指導を受けさせることにした。11月28日に実施したキャリア教育では、1・2年生対象に出前授業を実施しているが参加校が少なく今年度は1校の参加のみであったので、来年度は企業に来校していただき仕事についての講義をしてもらいたい

②アルバイト調査(資料2-4-2)

本校ではアルバイトの経験は社会自立において有用と考えているため可能な限り推奨している。

(7) 教頭 授業アンケート結果報告(資料3-1)

学年別の平均で見ると、昨年度よりは今年度の方が数値はよくなっている。通常は学年が上がるごとに

数値がよくなってくるが、今年度は3年生の評価が低くなっている。全体としては授業に対する評価、例えば4や5に見られる教材の活用などは総じて良い結果となっている。授業分析の7総合的に評価してくれるも高いポイントとなっている。

(8) 教頭 学校教育自己診断結果(資料4—1, 2)

授業アンケートとも関連しているが、授業に関しては高い評価を得られている。保護者回答に関して、今年度はグーグルフォームを利用しているため回答数が低くなった。紙媒体でも周知はしたが思うほど回答を得られなかった。生徒回答は、項目2, 3, 5, 9, 11が好転している一方、項目1の学校に行くのが楽しいという項目だけがマイナス0.7%となっている。多くの生徒は登校しているので授業の点で改善していきたい。ただ、保護者回答では1の項目が90%を超えているので、家庭では学校に楽しそうにしていると感じていただいているのではと考えられる。職員の回答については、総じて70%を超える高い数値があるが、項目18が大きく下がっているので改善していく必要がある。学校運営については評価が大きく上がっており、今後も重点的に力を入れて全体の評価が上がればよいと考えている。

資料4—2については今年度のみの内訳となっているが、生徒回答について分からないが30%ほどあるために、全体としては3分の2の生徒が学校に来るのを楽しみにしていると考えられる。教職員の回答についても2項目を除いて50%を切る項目がないので、少しずつ上向いてきている。

5. 協議

委員

学校教育自己診断の「学校に行くのが楽しい」という設問は、府立高校共通のものなのか、それとも各校で独自に設定しているのか。

事務局

共通の設問と各校独自の設問があり、文言についても学校ごとに工夫することができる。

委員

「学校に行くのが楽しい」という表現については検討の余地があるのではないかと。学校は単に楽しい場ではなく、学びや達成感を得る場でもある。保護者向けアンケートの「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」という表現の方が実態を反映しているように感じる。

委員

学校生活に価値や意義を見出しているかどうかという観点も重要ではないか。

委員

「楽しい」の内容は、生徒によって学習、友人関係、部活動など様々である。学校が生きがいや居場所となっているかという視点も含め、より適切な表現を検討してもよいのではないかと。

委員

次年度は「学校に行くのを楽しみにしているか」という表現に変更することで、回答傾向にも変化が見られるのではないかと。「学校に行くのが楽しい」は結果を問う設問であるのに対し、「学校に行くのを楽しみにしている」は学校への期待感や前向きな気持ちを捉えやすい表現だと考える。

委員

「学校に行くのが楽しい」という設問は学校生活全般に対する総合的な評価であり、具体的な項目よりも肯定的回答が低くなりやすいのではないかと。

委員

教職員向けにも「学校に行くのが楽しいか」という設問があってもよいのではないかと。教職員が働きがいを感じられていることも重要である。

委員

「学校は」という主語の設問と、「自分は」という主語の設問では結果の意味合いが異なる。自己診断結果を評価する際には、その点も踏まえる必要がある。また、「本校ではカウンセリングマインドを取り入れた指導がされているか」という項目について、現状をどのように捉えているか。

事務局

本校では、生徒指導において頭ごなしの指導ではなく、生徒との対話を重視している。停学指導の際には担当教員を配置し、複数の教員が関わりながら生徒の成長を支援している。一方で、「カウンセリングマインドが浸透しているか」という項目については、教職員それぞれの受け止め方による部分も大きいと考えている。

委員

評価が低いことが必ずしも悪いとは限らない。課題意識が高まった結果として数値が下がる場合もある。「いじめ対応体制」の項目についてはどのように分析しているか。

事務局

今年度は、これまで以上に小さな事象も丁寧に取り上げ、本人の思いを確認しながら対応するようにしている。そのため、いじめへの認識や対応に対する教職員の意識も変化していると考えられる。

委員

本人がいじめと受け止めればいじめとして扱われるため、件数が増えることは理解できる。実際にはどのような事例があるのか。

事務局

SNS 上での悪口や誹謗中傷などの事案があった。

委員

小中学校でいじめを経験した生徒が本校に入学してくることも多いと聞く。年間の保健室利用者数が1,000件を超えていることも踏まえ、保健室の役割について伺いたい。

事務局

保健室で気持ちを整えてから授業に戻る生徒もいれば、自身の悩みや困り感について相談する生徒もいる。

委員

生徒数が少ない中で、保健室利用が周囲から目立つことはないか。

事務局

相談内容や利用状況については十分にプライバシーに配慮している。

委員

サポートステーションを運営する立場から、卒業後を見据えた進路指導の状況について伺いたい。また、保健室利用者が増加する中、スクールカウンセラー（SC）を含めた教育相談体制についても伺いたい。

事務局

進路指導においては、生徒の学力や生活状況等を踏まえ、進学後の学習継続や就職後の定着について丁寧に助言を行っている。しかし、最終的な進路選択は本人及び保護者の意思を尊重している。進路決定に当たっては対話を重ねながら支援を行うとともに、卒業後に進学先や就職先でつまずいた場合でも学校に相談できるよう伝えている。

委員

卒業後も相談できる関係性を維持している点は大変素晴らしい。学校説明会などで積極的に発信してもよいのではないか。

事務局

担任や進路指導担当が、生徒との信頼関係を築いていることが大きいと考えている。

委員

就労継続支援 B 型事業所への進路状況について伺いたい。

事務局

前期卒業生の 1 名は在学中から B 型事業所を利用しており、もう 1 名についても複数の事業所を見学している。

委員

スクールカウンセラーの活用状況について伺いたい。

事務局

スクールカウンセラーによる相談内容は、必要に応じて教職員間で共有し、支援に活用している。スクールカウンセラーは月 2 回配置されており、本校は重点配置校となっている。養護教諭がコーディネーターとして連携しながら相談支援を進めているほか、総合的な探究の時間ではコミュニケーションに関する講座を実施している。

委員

学校が小さな問題段階から丁寧かつ組織的に対応していることに感謝している。また、授業アンケートでは国語科の評価が他教科と比較して低い結果となっているため、今後の改善に期待したい。